

# 【 結 果 の 概 要 】

## I 鳥取県の住みやすさについて

- 鳥取県に対する愛着や誇りは、約7割の人が「感じている」又は「少し感じている」と答えている。
- 今暮らしている地域について、約6割の人が「住みやすい」と答えている。
- 鳥取県に暮らしていて、豊かな自然環境に恵まれていると思う人は約9割と圧倒的に多く、また5割以上の人が、治安が良い、住民が親切であると答えている。
- 生活するにあたっての公共交通機関の状況について、約6割の人が「整っていない」と思っている。
- 鳥取県での暮らしの幸せの程度について、約9割の人が「普通」から「とても幸せ」と答えている。
- 幸福度の判断で重視することについて、6割以上の人が「家計の状況」「自身の健康の状況」と答えている。

## II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

### 【豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる】

- 「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」に満足を感じている割合が多い。なお、すべての項目において、満足を感じている割合が不満を感じている割合を上回っている。

#### （今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「豊かな観光資源を活用した観光誘客の取組」「強い農林水産業で食の魅力を発信する取組」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

### 【人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む】

- 「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」「地域の健康と安心を守る取組」に満足を感じている割合が多い。一方で、「中山間地の生活や社会機能を守る取組」「危機を乗り越え、地域を元気にする取組」「若い力が輝く協働のまちづくり」に不満を感じている割合が多い。

#### （今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「若い力が輝く協働のまちづくりの取組」「日本一子育てしやすい『シン・子育て王国』の推進」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

### 【幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ】

- 「防災・減災対策の強化」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」に満足を感じている割合が多い。一方で、「県内産業を支える人づくりの推進」「県内産業の持続的発展をめざす取組」に不満を感じている割合が多い。

#### （今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「県内産業の持続的発展をめざす取組」「暮らしやすく元気になるまちづくりを進める取組」「県内産業を支える人づくりの推進」が、今後優先すべき項目の上位を占めている。

### 【男女共同参画社会づくり】

- 男女に関する役割などについて、約8割の人が「現実として家事や子育てが女性の役割となっていると思う」、約7割の人が「現実として介護が女性の役割となっていると思う」と答えている。
- 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために行政が行うべき施策について、約6割の人が「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」と答えている。
- 男女共同参画社会を実現するために行政が特に力をいれるべきことについて、約6割の人が「保育・介護の施設・サービスや子育て・介護支援の充実など、仕事との両立を可能とする環境の整備」「性別によらない雇用や公正な待遇の確保、または働きやすい環境の整備を進める企業の取組支援」、約4割の人が「子育てや介護等で離職した人の再就職支援」と答えている。

### Ⅲ 重点施策への関心・認識

#### 【犯罪被害者支援について】

- 犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるかについて、約4割の人が「考えたことはないが、不安はある」、約3割の人が「考えたことがあり、不安を感じている」と答えている。
- 鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っているかについて、約6割の人が「知らない」、約2割の人が「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」と答えている。
- 犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援について、約6割の人が「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」、約5割の人が「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」と答えている。
- 犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻と思われる被害について、約3割の人が「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」と答えている。